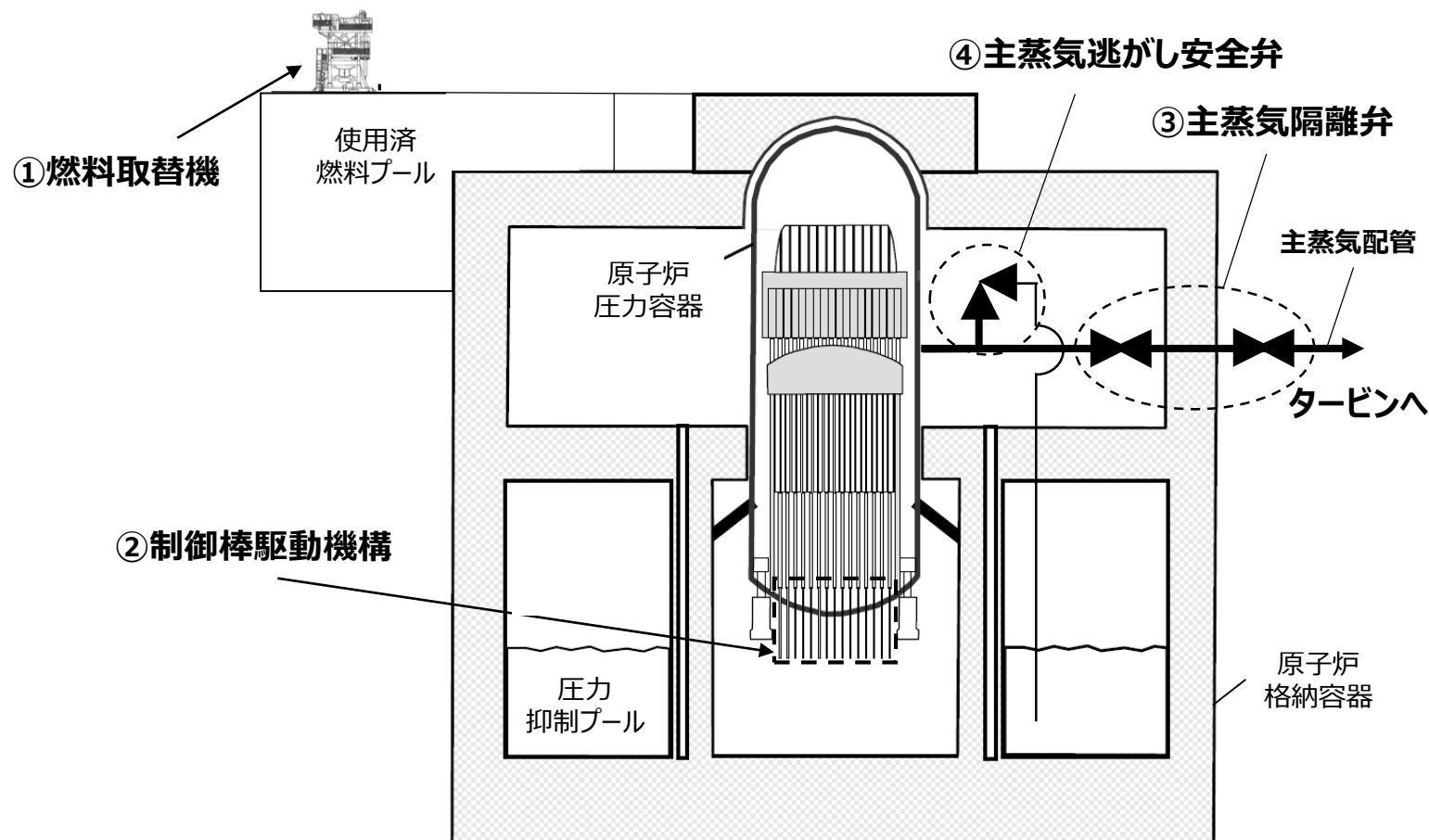


7号機における原子炉系主要設備の健全性確認について

- 発電所の目指す姿のひとつである「安全対策工事の完遂と、主要設備の機能が十分に発揮できること」の一環として、主要な原子炉系設備（下図①～④）の一部の健全性確認を実施
- 2月24日以降、原子炉のふたを開けて確認を開始。なお、原子炉系設備の健全性確認は、燃料装荷後も続くものではあるが、今回は、燃料の移動を伴わない部分を確認



①燃料取替機の健全性確認（模擬燃料を使用）

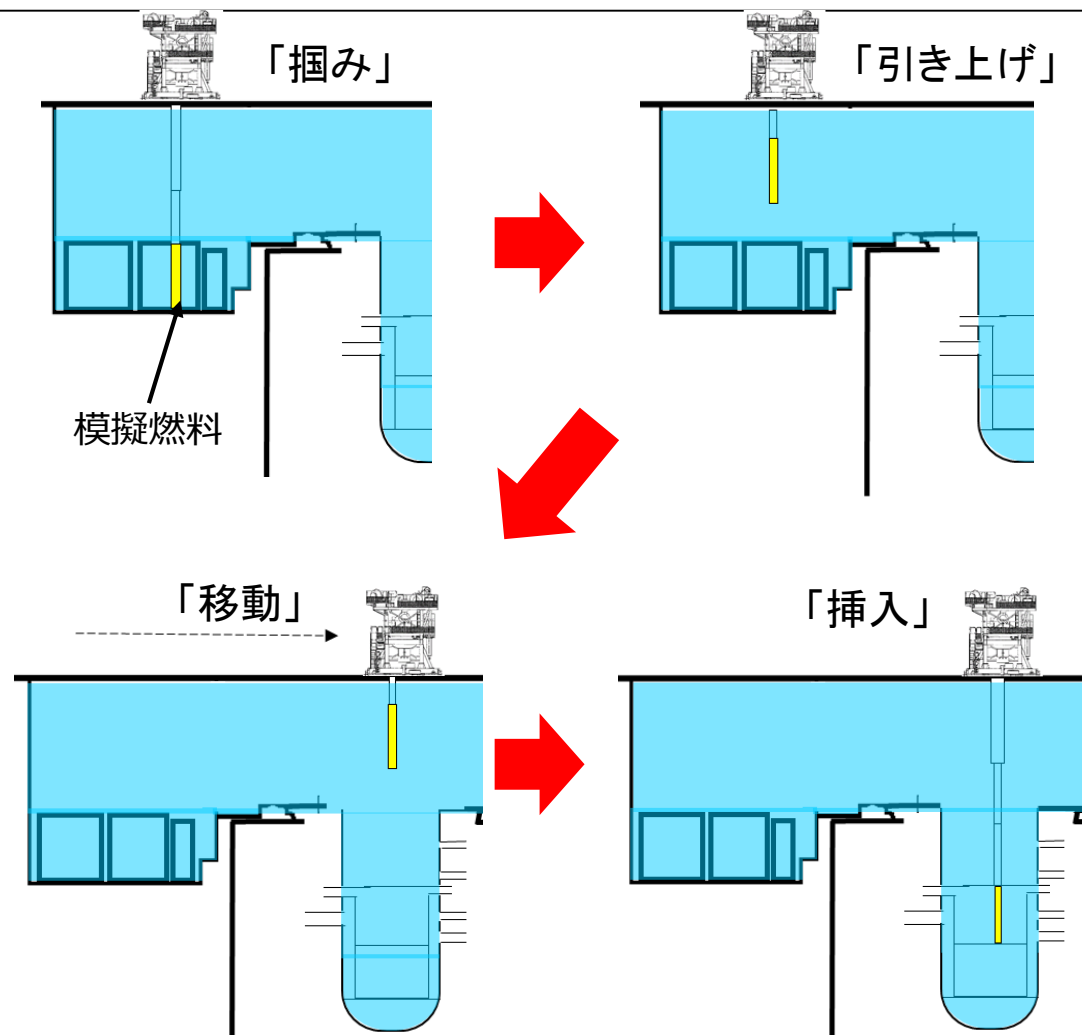
【設備概要】

- 燃料を原子炉および使用済燃料プールに移動させる設備

【確認概要】

- 実際の燃料とサイズや重さが同じ模擬燃料を用い、「掴み」、「引き上げ」、「移動」、「挿入」等が出来るかを確認

燃料取替機全体



②制御棒駆動機構の健全性確認

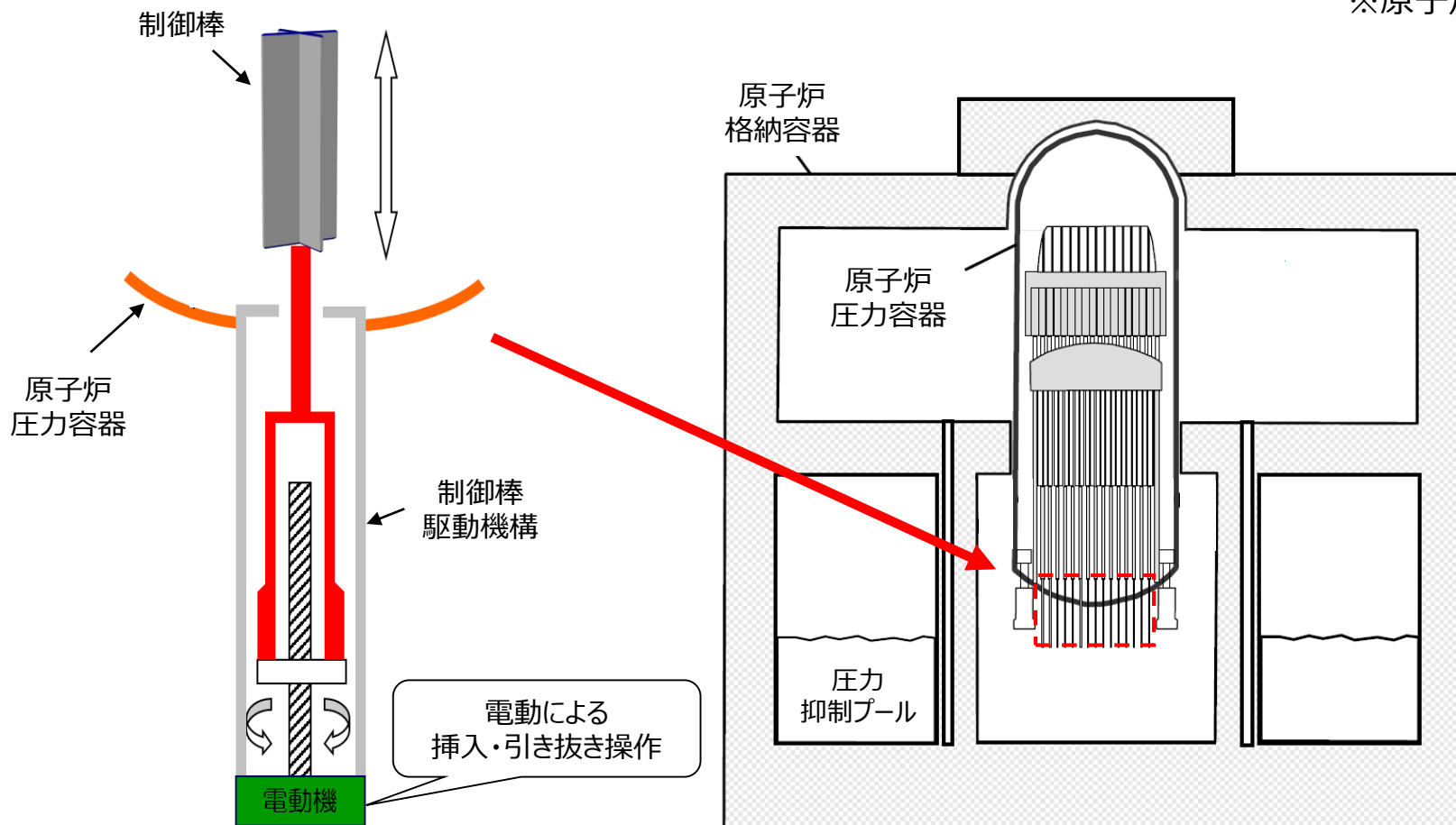
【設備概要】

- 原子炉の起動時、停止時、出力制御時に電動または緊急時には水圧にて制御棒を動かす設備

【確認概要】

- 205本の制御棒について1本ずつ電動による挿入・引き抜き操作を行い、全ての制御棒駆動機構が正しく動作することを確認
- 水圧による動作確認（スクラム※動作確認）は、燃料装荷後に実施

※原子炉緊急停止



③主蒸気隔離弁、④主蒸気逃がし安全弁の健全性確認の概要

【設備概要】

- ③主蒸気隔離弁 : 万が一の事故時に、放射性物質を含む蒸気等が原子炉格納容器の外側に流れないようにするための弁
- ④主蒸気逃がし安全弁 : 主蒸気隔離弁が閉まった際に、原子炉の蒸気を圧力抑制プールに逃がし、原子炉圧力を低下させることで、低圧注水を行えるようにするための弁

【確認概要】

- 主蒸気隔離弁の動作確認および漏えい確認
- 主蒸気逃がし安全弁の動作確認

③主蒸気隔離弁（内側）



④主蒸気逃がし安全弁



④主蒸気逃がし安全弁（18台）

